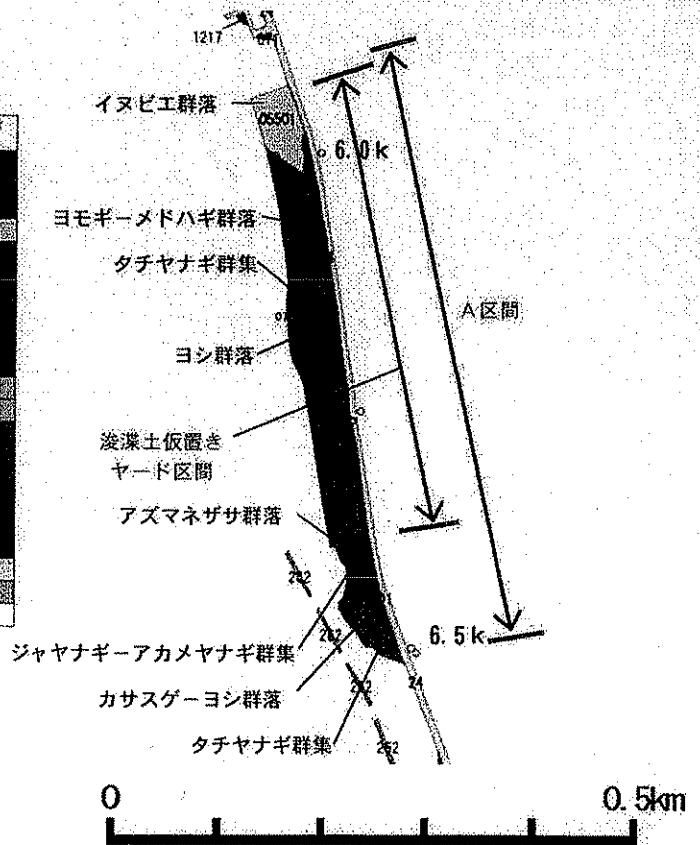


昭和47年植生図

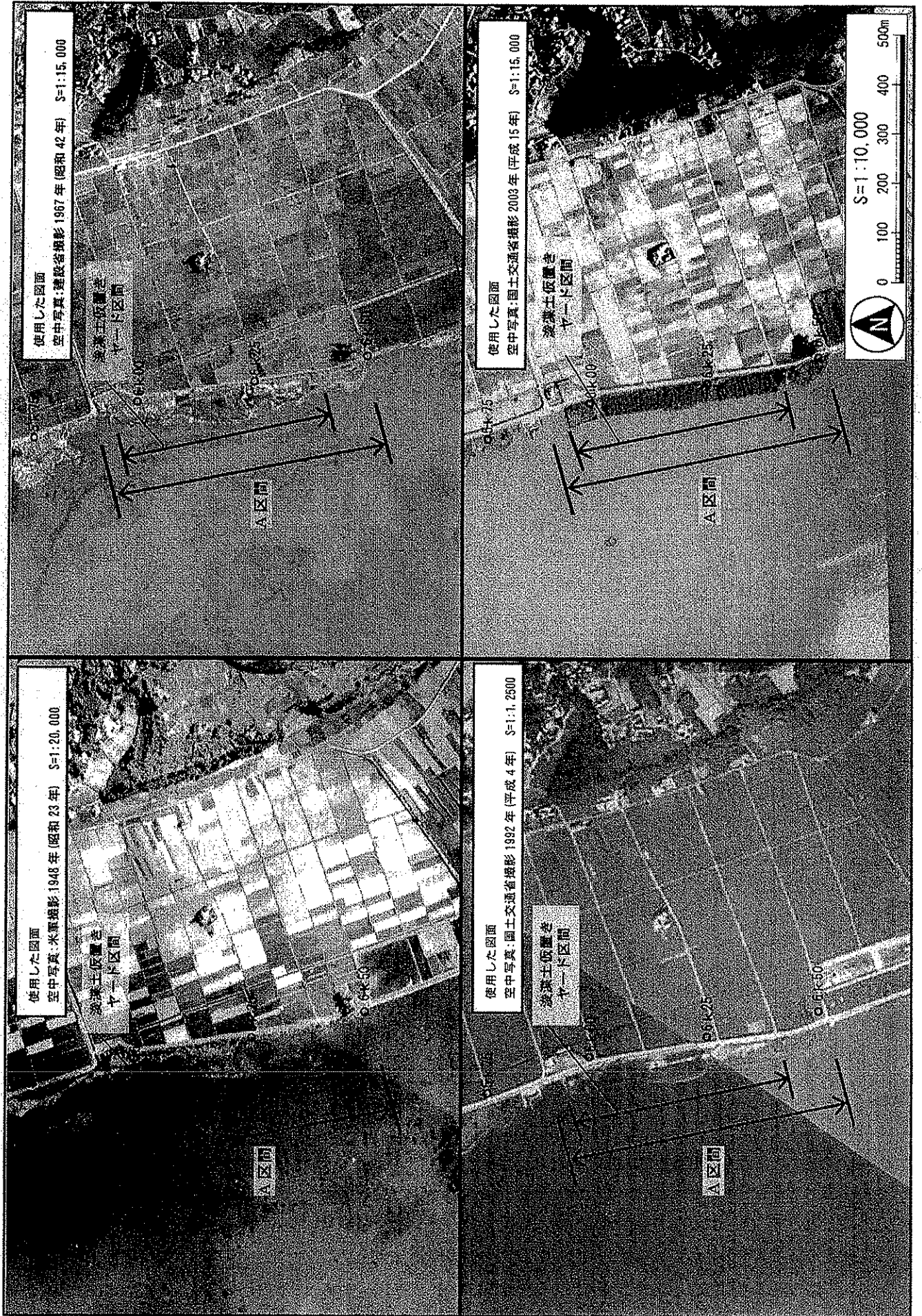
※航空写真より判読 (撮影高度 300~400m、35mm カメラによる手持ち撮影)

◎平成14年植生図凡例

基本分類	群落名等	群落表示コード	
浮葉植物群落	トチカガミ群落	02101	
	アオウキウシ群落	02102	
	ハス群落	02103	
一年生草本群落	イヌビエ群落	06301	
多年生広葉草本群落	ヨモギメドハギ群落		
	ヨシ群落		
	セイケガヨシ群落		
	カサスゲーヨシ群落		
	ヨシ-セイケガアワダチソウ群落		
	オギ群落	オギ群落	
	その他の単子葉植物群落	ヒメガマ群落	112
		マコモ群落	1002
	ヤナギ高木林	タチヤナギ群落 (低木林)	126
		ジャヤナギ-アカメヤナギ群落	127
カワヤナギ群落		1211	
アズマネザサ群落		111	
その他の低木林	クズ群落	119	
	フジ群落	123	
人工草地	人工草地	24	
人工構造物	コンクリート構造物	203	
開放水面	開放水面	28	



河川水辺の国勢調査植生図 (平成14年)

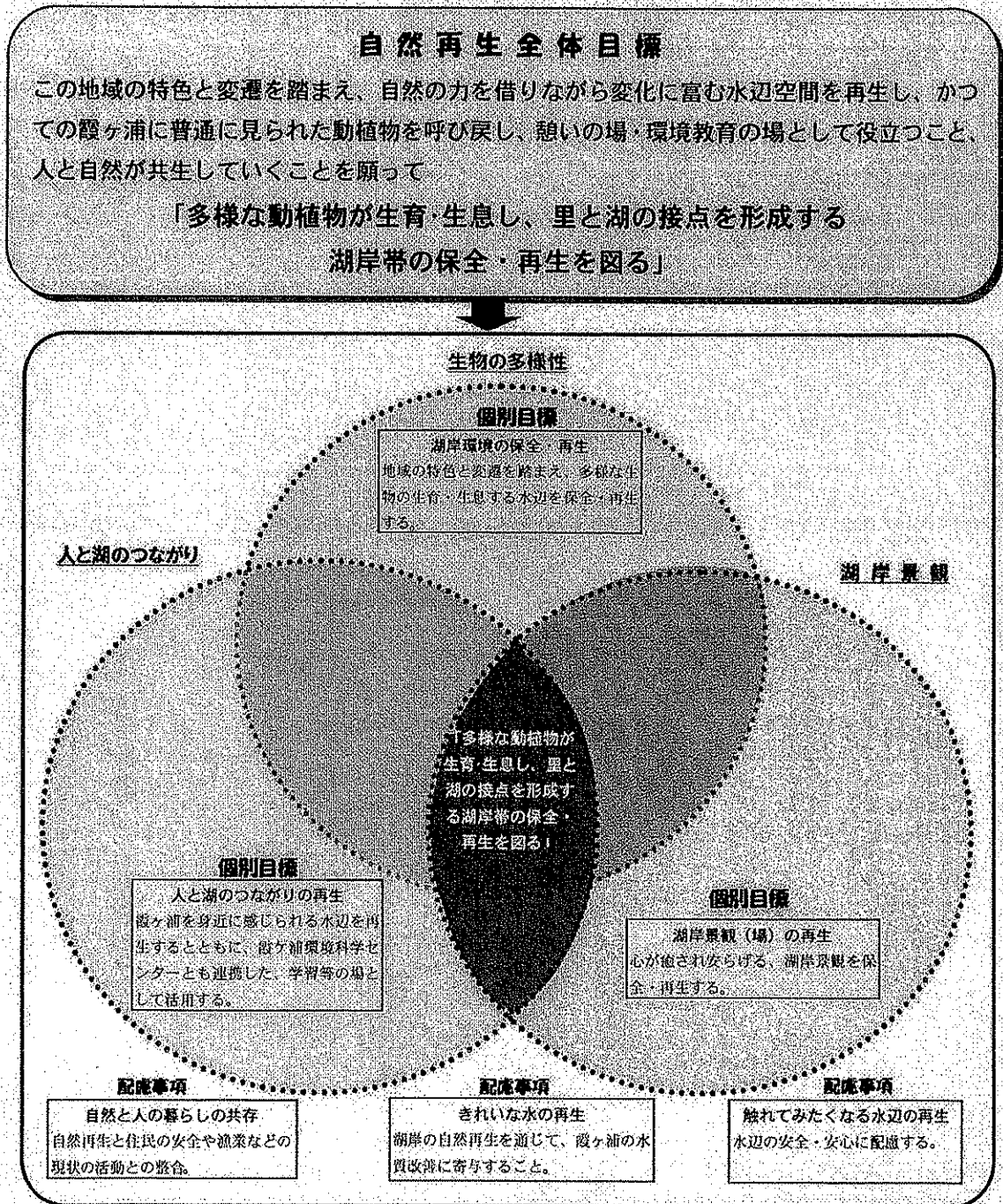


A区間の変遷(空中写真)

### 3) 事業内容

#### ①自然再生全体構想における目標設定（自然環境保全上の意義）

霞ヶ浦田村・沖宿・戸崎地区自然再生事業は、「多様な動植物が生育・生息し、里と湖の接点を形成する湖岸帯の保全・再生を図る」という全体目標の達成を目指し、生物多様性の保全・再生、人と湖のつながりの回復、湖岸景観の保全・再生に取り組むものである。



自然再生全体構想で定めた自然再生目標

## ②A 区間における事業の目的

A 区間の大部分は、浚渫土仮置きヤードとして利用されてきたため、湖岸線は鋼矢板列となつて、きわめて単調かつ不自然な形状を呈している。このような現状は「多様な動植物が生育生息し、里と湖との接点を形成する湖岸帯の保全再生」という「霞ヶ浦田村・沖宿・戸崎地区自然再生事業」の全体目標からは望ましくない。

しかしながら、全体目標の達成を目指して矢板列を全面撤去した場合には、浚渫土の流出により、湖の富栄養化を助長したり、ワカサギ・シラウオの産卵を阻害するなど、新たな問題を引き起こす可能性がある。浚渫土砂を他に移動することを考えても、およそ 3 万 m<sup>3</sup> に及ぶ残土を収容する代替地の確保は至難である。さらには矢板を撤去して緩傾斜の浜を造成しても、湖底地形と湖水位および波浪等との関係から、構造物による保護でもしない限り、浜を維持して植生帯を定着させることができる確率は低いと考えざるを得ない。

そこで本事業では、矢板列の撤去を将来の問題として残し、当面は矢板列の一部を切断して開口部を設け、ヤード跡地に湖水を導入するとともに、ヤード内の一部を掘り込んで浅水域を造成することにより、湖との連続性を保つ水辺空間を造成して、自然の力を借りながら、多様な動植物が生息する湖岸の再生を計ることとする。A 地区内のヤード跡地以外の区域については、必要に応じ軽微な作業を実施することで多様な動植物の生活の場を確保するとともに、環境学習の場として活用を図る。

A 区間における事業目的には、他区間にかかる実施計画の作成に役立つ知見を得ることをも加えて、実施後の経過を継続して追跡し、結果を整理する。

### 事業の目的

- ・陸と水とを遮断する矢板列の一部を切断して、湖と連続性を持つ水辺空間を再生する。
- ・自然の力を借りながら、複雑な湖岸線を持つ浅水域を形成して、多様な動植物が棲む湖岸を再生する。
- ・実施後の経過を追跡調査して、当該区間および他区間での今後の自然再生事業計画の立案に資する知見を得る。
- ・霞ヶ浦において衰退が著しく、保全上重要な植物を維持できる場を再生する。

### ③期待する姿<目標像> (自然環境保全上の効果)

この実施計画が期待する A 区間の目標像は次のとおりである。

#### ○「湖岸環境の保全・再生」にむけて

- ・矢板切断部から陸岸へ湖水を流入させることにより、その後の自然の力と相まって、ワンド状の湖岸地形が形成される。
- ・水際にはマコモなどの抽水植生が、浅水域にはエビモなど沈水植生が繁茂する湖岸域となり、水生小昆虫の生活の場、フナ・コイ等の産卵の場となる。
- ・霞ヶ浦において衰退が著しく、保全上重要な植物が恒常的に生育できる場が形成される。

#### ○「湖岸景観(場)の再生」にむけて

- ・新たに形成されるワンド状の浅水域のほか、既存のヤナギ林、堤外湿地と周辺の開水面があいまって、まとまりのある湖岸景観を形成する。

#### ○「人と湖のつながりの再生」にむけて

- ・ヤナギ林・浅水域・堤外湿地をつなぐ観察路の周囲が、水辺に近づける環境学習の場、散策や写生の場として利用される。
- ・環境学習の場としての活用によって、これまでの人と湖のかかわりや、湖岸環境についての理解を深めることにより、人と湖のつながりの再生が図られる。

#### 期待する姿

- ・フナ等が産卵場に利用するような、複雑な水際と豊かな植生を持つワンド地形の形成
- ・ヤナギ林・ワンド湖岸・湖岸湿地とつながった、変化に富む湖岸景観の形成
- ・楽しみながら学べる、水辺に近づける環境学習の場の形成
- ・霞ヶ浦において衰退が著しく、保全上重要な植物が恒常的に生育できる場の形成